

PTA本部便り

第1号 平成27年9月9日 PTA本部発行

行ってきました、岐阜！全知Pレポート Part 1

「全国特別支援学校知的障がい教育校PTA連合会平成27年度第34回全国研究協議大会」（長い!!）が、8月29日・30日に、岐阜で行われました。ざっくり言って、これは全国の知的特別支援学校のPTA会長や校長先生が集まって、自分たちの取り組みを紹介してみんなで刺激を受けるという感じでしょうか。とにかく、大会名を始め出席者の肩書が長すぎでした。でも、盛りだくさんの内容でしたので、報告しなければという気持ちになっています。とはいうものの、盛りだくさん過ぎて、読み飽きない程度にまとめられるか、不安ですが…。

今年は本校PTAから3名（会長・関山，副会長・酒井&安河内）も参加したのですが、それは伊奈特別支援学校のPTAの取り組みを全国の皆さんの前で発表したからなのです（拍手!!）。私はな～んにもやってないのですが、関山会長の作った映像と素晴らしいトークは本当にすごかったです。関西に住む経験があると笑いのツボを押さえずにはいられないのでしょうか。いいですね。どうぞブログで写真をチェックしてください。

さてさて、まず開会式では4人の方のお話し。文科省の方（肩書が長い）はインクルーシブについてのポイントを熱く話していました。一昨年に着任された当時はガチガチでしたが、すっかり雄弁になられた姿に感動を覚えました♪「合理的配慮」と「キャリア教育」について中心に話し、知的教育には子どもたちがどういう流れでその活動がなされていて「振り返り」がされているか、が次への意欲につながることを力説しておられました。

次に厚労省の方（すみません、肩書省略。あとで全知Pの読み物が配布されます）は障がい児支援の現状についてということで、放課後等デイサービスについての詳しいお話し（時間がなくてこれだけになりました）でした。ガイドラインとして「評価表」を作ったそうです。保護者と事業所でそれぞれ記入してより良い取り組みを促すことを目的に使う、ということがねらいたとか。そして、障がい支援への国の予算は文科省も厚労省もアップしているので、頑張ります!! とのことでした。

3枠目は鍵屋一さんの防災の話。過去の歴史から関東圏では2020～2025年に大災害が来てもおかしくない!! とはじめに喝を入れられました。もしものことが起こっても、日常（日頃いつもやっていること）を早く取り戻すことが子どもにとって大切だというお話しでした。心の準備は大事です。知識を行動に変えるのは訓練です。9月18日～19日に開催する「学校に泊まろう！」の内容に、早速アイディアを取り入れましたので、今からでも是非参加してください♥

（裏面に続く）

4枠目、PTA連合会の顧問の方が「みんな家族。ひとつになろう」とあったか〜い掛け声で第一部は終了でした。

続いての分科会で、最初に言いましたが、私たちの学校の取り組みを発表しました。*ボランティアスクール「ボラさんといっしょ」*「学校に泊まろう」*「キャラバン隊」について、規定の2倍の時間をもらっての熱い報告となりました。そのあと、懇親会でも声を掛けていただいたので、好評だったのは間違いありません♪

- ◎誰ひとり間違っている人はいない
- ◎人には事情がある
- ◎100点をねらわない
- ◎加点主義になろう
- ◎ひとつになろう

↑心に残った顧問の方からの提案

夜の懇親会では、地元で音楽活動をしている「ゆめぼっけ」さんたちの生演奏。活動12年目です。みな正装をして、本格的な演奏でした。才能があるっていいなあ〜と眺めておりました。

そして、次の日の講演会はアトラクションで劇団「ドキドキわくわく」さんの劇を見てから、トークセッションがありました。性教育をねらいとしての劇を通して、自分のところとからだを受け入れ、大事にしていく取り組みをされていました。男の子は純粋に「キスしたい」という思いをきちんと言葉にして、ホルモンの働きを学んで行ったとのことでした。思春期に少し大人の人ときちんと性について向き合うことと、友だちと付き合う経験は大切なことですね。そんな場所とサポートする人達がいることって素敵だなあと思いました。きっと母親であれば、複雑な気持ちになると思います。我が子が恋愛…本気で望んでいるか。木全先生（日本福祉大学）は、穏やかな表情と語り口でしたが、その時ばかりは鋭く保護者に挑戦するかのような口調でした。

余談ですが、泊まったホテルも素晴らしく夢のような1日半でした。みなさん、すみません。帰りの新幹線で早速酒井さんのご主人からお子さん発熱のメール。一挙に現実に戻り、あたふたと（走りました!!）日常に帰った次第です。

そのときしみじみとお互い話したのは、過酷な日常があるからこそ、頑張っている仲間と会うことで、こんなにも元気とパワーがはじける大会になるのだなあということ。とても元気をもらえました。

懇親会での九州のPTAの方の「ダメよ〜ダメダメ」のコントは見ものでした。芸を磨きたい安河内でした。以上、ご報告終わりです。（文責 安河内崇代）

※色々な資料がついているレジュメがあります。興味のある方は、PTA図書室（第2会議室）に置いてありますので、ご覧くださいね〜。

PTA本部便り

第2号 平成27年9月10日 PTA本部発行

行ってきました、岐阜！全知Pレポート Part 2

全知P岐阜大会のレポート第二弾です。副会長の安河内さんが書かれたPart①はもう読まれましたか？2日間という短い日程にぎっしり詰まった内容がうまくまとめられていますので、ぜひそちらを先にお読みくださいね。

行政の方やアドバイザーの先生方のお話しは安河内さんがまとめてくださったとおりです。補足と言うか、印象に強く残ったことをあえて一つ選ぶなら、毎年いらっしゃって熱く防災について語られる鍵屋先生のお話しです。災害は起こるかもしれないものではなく、確実に近いうちにかかることであり、それに備え、生き延びていくことは、既に当たり前のこととして語られていました。今年はその先の、災害後にいかに迅速に日常生活に復帰していくことができるか、ということにも焦点が当てられており、自分の意識の低さをまざまざと思い知らされました。

ここで受けた衝撃をすぐに持ち帰って9月18～19日に開催する「学校に泊まろう！」に生かしたいと思っていますので、今からでもぜひぜひご参加くださればと思います！（担任の先生を通して河島先生にご連絡ください♡）

やはり私が補足すべきは、全国大会という大きな場所で「関東甲信越ブロック代表」として、本校の取り組みを発表させていただいたことだと思います。主にお話しさせていただいたのは、「ボランティアスクール・ボラさんといっしょ♪」のことと、「伊奈特キャラバン隊」のことですが、その他にも「学校に泊まろう！」や「福祉事業所合同説明会」についても発表しました。

いずれの取り組みについても、私が思いついて始めたことでもなければ、積極的にリーダーシップを発揮して行っていることでもありません。これまで活動に携わってこられたすべての方々の方々の努力と足跡を、今回いい機会をいただいたのでまとめてスライドにしてお話ししただけです。歴代のPTA会長さんをはじめ、子どもたちのためなら労を惜しまない、伊奈の保護者の皆さん方の活動記録をこのように発表させていただくことができ、本当に良かったと思いました。（正直、発表前は準備に苦勞し、なんで引き受けたんだろうと後悔の気持ちでいっぱいでしたが…^^;）

私たちの発表で、一番大きな反響があったのは、キャラバン隊の公演の実演でした。茨城からわざわざキャラバン隊グッズを持参した甲斐があったというものです。女優魂を炸裂させた安河内さんと酒井さん！ピカピカ王国の「ピカリン」と「ピカッチ」になりきって大熱演したかと思えば、次の場面ではヒステリックに怒鳴り散らす「先生」と怯える「くみちゃん」の役を演じきったお2人に、会場から感嘆の声と惜しみない拍手が湧き上がりました。

（裏面に続く）

その後の懇親会の時にも、自分の学校でもキャラバン隊活動に取り組んでみたいからノウハウを教えてほしい、とたくさんの方からお声を掛けていただき、連絡先を交換し合いました。

また、発表に使った時間は少なかったのですが、「学校に泊まろう！」への反響がとても大きかったです。このような宿泊訓練をうちでもやってみたいと思っていた、と声を掛けてくださる会長さん、発表の中で映像を流した「あたりまえ体操・防災編～伊奈特バージョン～」のオリジナルビデオをうちの学校でも使



あたりまえ体操・防災編～伊奈特バージョン～

たいのですが、とお願いに来られた先生など、全国的な防災意識の高まりを肌で感じました。今後、私たちが手作りしたビデオが他県の特別支援学校でもお役に立つと思うと、嬉しい気持ちでいっぱいになりました♡

安河内さんのレポートにもありましたが、九州ブロックのブロック長さんが、全国大会の準備に尽力された岐阜県の方々をねぎらうために「ダメよ～ダメダメ」のコントを、フルメイク（白塗りです！）とフル衣装で披露されました。その完成度の高さには、ただただ絶句でした。一瞬、本物をゲストに呼んだのかな？と思ったほどです。そして、来年度の全国大会の開催地は秋田県なのですが、既に秋田のPTAの方々の士気がとても高くて、来年もますます盛り上がりそうな予感でいっぱいでした！

全国津々浦々に、私たちと同じ悩みをもちながらも、子どもたちのために日々頑張っている仲間が大勢います！そのことを実感できた、大変貴重な経験でした。ここで感じたエネルギーをこれからのPTA活動に還元していきたいと思っています。（文責 関山幸子）

